

記 録

岡山県におけるコテングコウモリ（翼手目，ヒナコウモリ科） の確認記録について

岡山市 山田 勝*
矢掛町 江木 寿男

Records of *Murina ussuriensis* (Chiroptera, Vespertilionidae) in Okayama Prefecture

Masaru YAMADA, *Okayama-city*
and
Hisao EGI, *Yakage-town*

キーワード：枯葉，コテングコウモリ，クズ，水環境，ねぐら。

はじめに

コテングコウモリ *Murina ussuriensis* は、日本では、北海道，本州，四国，九州，屋久島，対馬，壱岐から知られるが、まだ20に満たない道県からしか知られていない。本種は昼間の隠れ家は基本的に樹洞であるが、木の茂み，樹皮の隙間，落ち葉の下，洞窟内，家屋内でも見つかっている。林内の低層を飛翔しながら飛翔昆虫類を採餌すると考えられているが、詳しい生態は不明である（阿部ほか，2005）。夏から秋にはトチノキ *Aesculus turbinata*，クズ *Pueraria lobata*，ヤマブドウ *Vitis coignetiae*，マルバダケブキ *Ligularia dentata* などの大型の枯れ葉の中で休憩する。また，福島県や広島県では，ブナ林の雪上や雪中で見つかった事例も報告されている（前田，2005）。

岡山県内での本種の記録は，岡山県鳥獣生息分布調査報告書において高梁市川上町付近で1例（岡山県，1989），平成15年度狩猟統計に1例産地不明の捕獲記録がある。それ以外に確実な記録があるかどうかは定かではないが，今日まで本種の記録が少ないことは確実であり，岡山県版レッド

データブック2009では，情報不足に選定されている（小林・川原，2010）。今回，筆者らはまとまった数のコテングコウモリの記録を得ることができたので，確認概要を報告することとした。

調査方法

前述のように，本種は，夏から秋にかけて大型の枯れ葉の中で休息することが知られている（向山・重昆，2005）。筆者らは，岡山県内において2010年9月から2010年11月の間，本種が潜んでいると思われる大型の枯れ葉を握ったり，下から覗き込んだりして本種の確認に努めた。確認された個体については，個体数，調査時の天候，気温，標高，性別，利用していた地上高（地表から枯れ葉下端までの高さ），周辺環境等を記録し，写真撮影も行った。なお，捕獲については事前に岡山県の捕獲許可を得て行った（平成22年度 第10-12号，第10-13号）。

結 果

調査結果を表1に示す。今回の調査では，17箇所計20頭の確認記録が得られた（写真1～18）。また，確認のあった市町村（便宜上平成の大合併前の旧市町村名で記載する。）の分布図を図1に

*連絡先：m-s-yamada@mx31.tiki.ne.jp

示す。生息確認の得られた町村は、鏡野町、佐伯町、川上町、勝北町、加茂町、阿波村、川上村、御津町、富村、加茂川町、柵原町の11町村であった。以下に性別、標高、周辺環境、ねぐらとして利用していた植物、確認地上高の5項目について考察した。

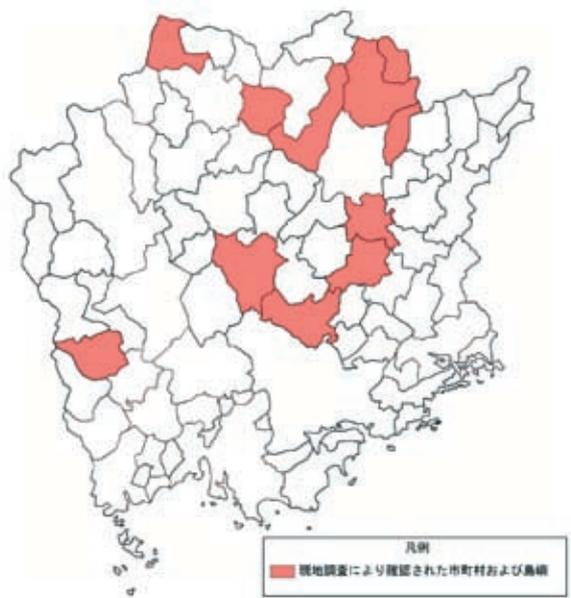


図1. コテングコウモリの分布図.

1. 性別について

図2に示すとおり性別は雄5頭（25.0%）、雌12頭（60.0%）であった。逃走した3頭については不明（15.0%）として扱った。データ数が多いもの、明らかに雌の個体数のほうが多い傾向が認められた。繁殖にかかわる何らかの要因がある可能性はあるものの、理由については全く不明である。

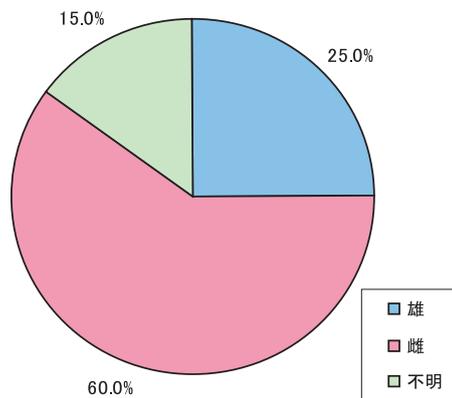


図2. 確認されたコテングコウモリの性別 (n = 20).

表1. 調査結果一覧表.

確認年月日	時刻	天候	気温 (°C)	調査市町村	標高 (m)	確認生体数	性別	周辺環境	ねぐらとして利用していた植物	地上高 [※] (cm)	特記事項
							♂	♀			
2010/9/19	12:08	晴れ	23.5	鏡野町A	375	1	1	川沿いの混交林	クズの枯葉	175	
2010/9/24	7:25	晴れ	16.2	佐伯町	60	2	2	川沿いの混交林	クサノコノ枯葉	50, 90	
2010/10/2	17:25	晴れ	不明	川上町	300	1	1	川沿いの混交林	クズの枯葉	170	
2010/10/10	9:55	晴れ	20.2	勝北町A	403	1	不明	川沿いの混交林	クズの枯葉	158	逃亡
2010/10/10	10:10	晴れ	21.7	勝北町B	405	1	1	川沿いの混交林	クズの枯葉	170	
2010/10/10	10:50	晴れ	21.1	加茂町A	429	1	1	川沿いのスギ林	クズの枯葉	265	
2010/10/10	11:15	晴れ	19.7	加茂町B	450	2	1 1頭不明	川沿いのスギ林	クズの枯葉	210	1頭逃亡
2010/10/10	11:45	晴れ	20.0	勝北町C	483	1	1	川沿いのスギ林	クズの枯葉	149	
2010/10/16	7:25	晴れ	14.5	鏡野町B	375	1	1	川沿いの混交林	クズの枯葉	140	
2010/10/16	9:00	晴れ	14.0	加茂町C	585	2	1 1	川沿いのスギ林	クズの枯葉	90	1枚のクズへ2頭
2010/10/16	11:50	晴れ	19.7	阿波村	565	1	不明	川沿いの混交林	ホノキの枯葉	175	逃亡
2010/10/16	13:05	晴れ	20.2	勝北町D	403	1	1	川沿いの混交林	クズの枯葉	175	
2010/10/17	11:55	晴れ	20.5	川上村	582	1	1	川沿いの落葉広葉樹林	クズの枯葉	120	
2010/10/30	9:40	曇り	15.8	御津町	110	1	1	沢沿いの混交林	クズの枯葉	110	
2010/10/31	9:40	曇り	15.8	富村	511	1	1	川沿いの混交林	クズの枯葉	130	
2010/11/7	8:08	曇り	10.2	加茂川町	134	1	1	川沿いの混交林	クズの枯葉	134	
2010/11/10	12:35	晴れ	20.3	柵原町	171	1	1	川沿いの混交林	クズの枯葉	125	

※地表から枯葉下端まで

2. 標高について

図3に示すとおり標高は60mから585mの間で確認され、大半は中山間部といえるような300～500m程度の場所であった。驚くべきことに標高60mの場所でも1例確認された。条件がよければ、低標高の場所でも生息が可能であることが示唆された。

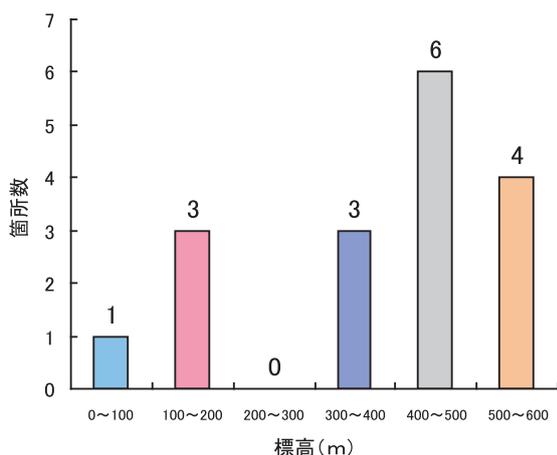


図3. コテングコウモリが確認された場所の標高 (n = 17).

3. 周辺環境について

図4に示すとおり周辺環境は、スギ*Cryptomeria japonica*、ヒノキ*Chamaecyparis obtusa*などの混じる川沿いの混交林が11箇所、沢沿いの混交林が1箇所、川沿いの落葉広葉樹林が1箇所、川沿いのスギ林が4箇所であった。いずれも地形的に見ると谷底の道路近くの林縁であり、森林内では確認されなかった。また、御津町での1箇所が、浅い、幅2mほどの急傾斜の沢に面していたのを除いては、ごく直近に溪流の様相の河川が認められた。これらのことから本種は、ねぐらへの出入りが容易でかつ近くに餌となる水生昆虫類が多い場所を意図的に選択している可能性も考えられた。さらに、今回データとして示すことはできなかったが、御津町での1データを除いては周辺500m境界に民家がないような場所であり、人為的介入が少ないほうが本種の生息に好ましいものと推測された。

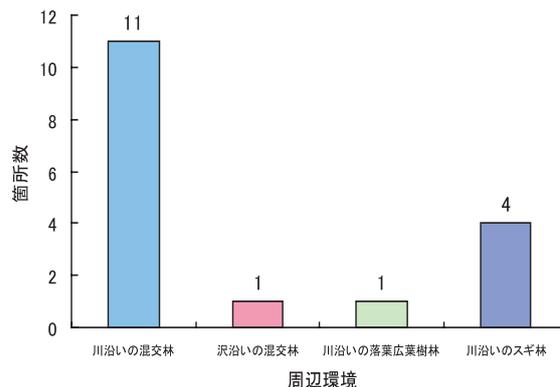


図4. コテングコウモリが確認された場所の周辺環境 (n = 17).

4. ねぐらとして利用していた植物について

図5に示すとおりねぐらとして利用していた植物は、クズ、タケニグサ*Macleaya cordata*、ホオノキ*Magnolia obovata*の3種であったが、枯れて丸まったクズの葉が18か所・90%と最も多く利用されていた。これは林縁部や大小の河川沿いを中心に、県内に広く分布があることから、必然的にクズの利用機会が多いためと考えられた。2010年10月16日の加茂町Cでは山間林道沿いのクズの葉において、雄、雌各々1頭ずつ、計2頭が1枚の枯れ葉内で確認された。しかし、それ以外の個体はすべて単独であった。

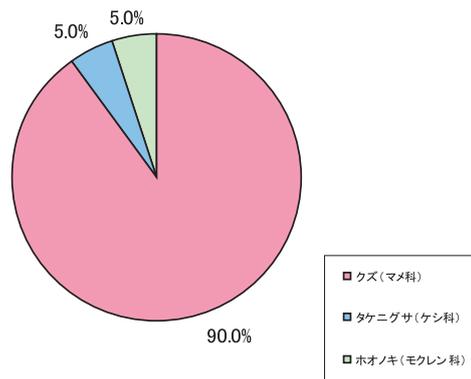


図5. 確認されたコテングコウモリがねぐらとして利用していた植物 (n = 20).

5. 確認地上高について

図6に示すとおり確認地上高は、最も低いもので50cm、また最も高いもので265cm、平均145cm

と大半が手の届く範囲の高さであった。ただし、高い位置にある枯れ葉は調査が困難であったので記録が得られなかった可能性がある。今後その条件を克服して調査できればさらに確認が増える可能性もある。

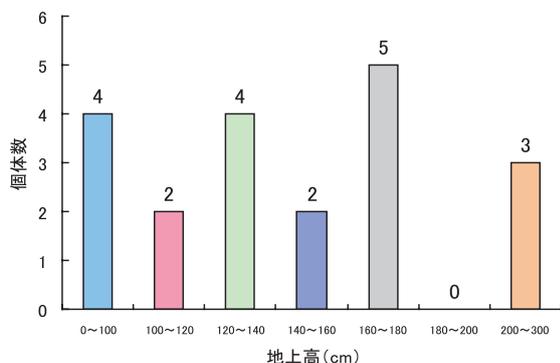


図6. コテングコウモリが確認された場所の地上高 (n = 20).

まとめ

筆者らは、2007年頃から細々と本種が生息しているような枯れ葉を気に留めて調べてきた。2009年までは大半の葉が枯れた後の11月下旬から冬場にかけて集中的に観察をおこなってきたが成果は得られなかった。2010年にはクズに着目し、それより早い8月下旬頃から観察を開始した。その結果、9月19日の鏡野町岩屋での事例を機に多くの記録が得られた。このことは、初秋のほうが晩秋に比べて枯れ葉が少なく、相対的に隠れている本種を見つけ出せる可能性が高くなることを示しているのかもしれない。特に、晩夏から初秋にかけて、草刈等によりスポット的に出現する枯れ葉を積極的に調べれば効率的に記録が得られると思われる。今後もこういったことに留意して調査することにより、岡山県内の新産地を明らかにしたい。

また、本種は生態的に未解明の部分が多く県内

の繁殖状況等についても全く不明である。このため保全について、この場で適切かつ具体的な提案をすることはできないが、森林伐採による林相変化や営巣木となりそうな大径木の減少は、コウモリ類を含めた多くの小動物に少なからずインパクトを与えることは間違いないものと思われる。また、河川工事などによる川相変化も餌となる水生昆虫の減少等につながる恐れがあるので、本種の生息している場所でそれらの行為を行う場合には専門家等に指導を仰ぎ何らかの配慮を行いながら進めていく必要がある。

謝 辞

本調査を進めるにおいて、捕獲許可に関してご教授をいただいた岡山県環境文化部自然環境課の三枝道生氏、また、多くの情報と具体的なご教授をいただいた株式会社ウエスコの森分泰三郎氏、貸谷康宏氏、さらに現地調査でお力添えをいただいた真庭市在住の山田信光氏、山田豊子氏、岡山市在住の山本 幸氏、赤磐市在住の橋本智明氏に感謝の意を表するとともに記して深くお礼申しあげます。

引用文献

- 小林秀司・川原啓路, 2010. コテングコウモリ. 岡山県版レッドデータブック絶滅のおそれのある野生生物(動物編) 2009. 33. 岡山県生活環境部自然環境課, 岡山.
- 前田喜四雄, 2005. コテングコウモリ. 日本の哺乳類(改訂版). 59. 東海大学出版会, 泰野.
- 向山 満・重昆達也, 2005. コテングコウモリ. コウモリ識別ハンドブック. 52-53. 文一総合出版, 東京.
- 岡山県, 1989. コテングコウモリ. 岡山県鳥獣生息分布調査報告書. 220. 岡山県環境保健部自然保護課.



写真1. コテングコウモリの確認場所（鏡野町，2010年9月19日）.



写真5. コテングコウモリの確認場所（御津町，2010年10月30日）.



写真2. コテングコウモリの確認場所（佐伯町，2010年9月24日）.



写真6. コテングコウモリの確認場所（加茂川町，2010年11月7日）.



写真3. コテングコウモリの確認場所（加茂町，2010年10月10日）.



写真7. クズ（マメ科）の枯葉にねぐらをとるコテングコウモリ（鏡野町，2010年10月16日）.



写真4. コテングコウモリの確認場所（川上村，2010年10月17日）.



写真8. クズ（マメ科）の枯葉に潜むコテングコウモリ（加茂町，2010年10月10日）.



写真9. 1枚のクズ（マメ科）の枯葉へ、雄雌計2頭がねぐらをとっている（加茂町，2010年10月16日）.



写真10. ホオノキ（モクレン科）の枯葉へも潜む（阿波村，2010年10月16日）.

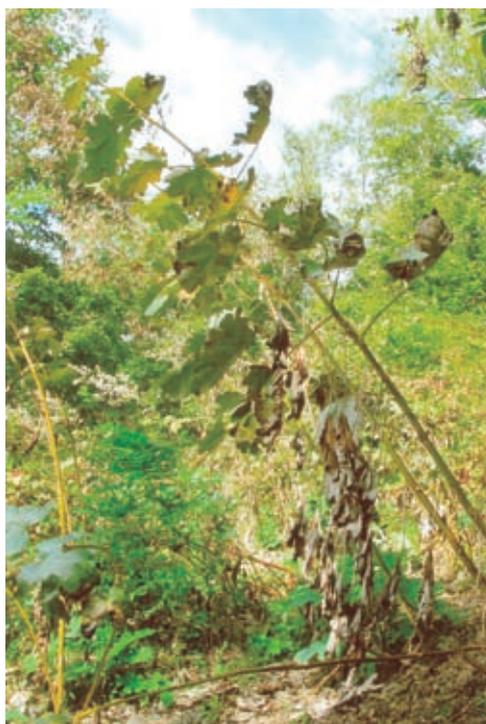


写真11. タケニグサ（ケシ科）（佐伯町，2010年9月24日）.



写真12. タケニグサ（ケシ科）のしおれた葉にねぐらをとるコテングコウモリ（佐伯町，2010年9月24日）.



図13. 翼は広くて短い (加茂町, 2010年10月10日).



図16. 鼻孔は管状で、外側やや前方に突出している (加茂町, 2010年10月16日).



図14. 体毛は黄土色から薄茶色 (加茂町, 2010年10月10日).



図17. 側膜は足指の基部から約1/2のところについている (鏡野町, 2010年9月19日).



図15. 体重6.5gの雄個体 (加茂町, 2010年10月16日).



図18. 尾膜背面は長い毛で覆われ毛深く見える (鏡野町, 2010年10月16日).